

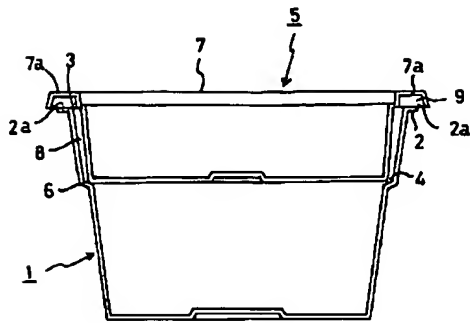
SN 10/645658

NAKAGOME

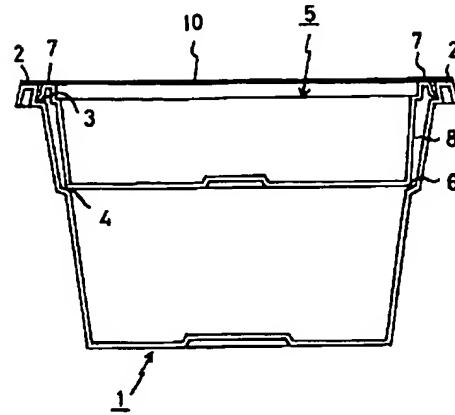
(4)

特開平6-293366

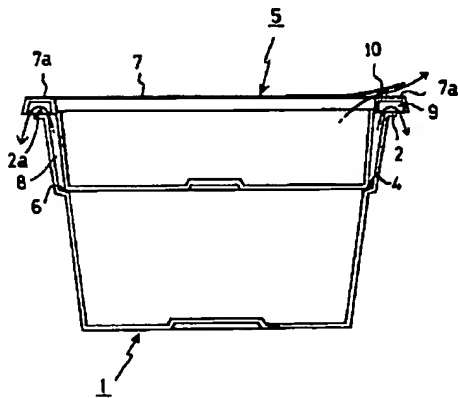
【図3】



【図4】



【図5】



PAT-NO: JP406293366A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06293366 A
TITLE: FOOD CONTAINER FOR MICROWAVE OVEN
PUBN-DATE: October 21, 1994

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
NAKAGOME, TAKASHI

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME DAINIPPON PRINTING CO LTD COUNTRY
N/A

APPL-NO: JP05095033

APPL-DATE: March 31, 1993

INT-CL (IPC): B65D081/34

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a food container, with which two kinds of food housed separately therein can be cooked simultaneously with a microwave oven.

CONSTITUTION: A food container for microwave oven is constructed of a container main body 1, equipped with steps 3, 4 on its inner circumferential wall and a flange 2 on its opening edge with a dented groove 2a provided to its opening, and an inner container 5 that is fitted into the opening of the

container main body 1 and is equipped with a flange 7 on its opening edge with projecting pieces 7a provided to its opening.

COPYRIGHT: (C) 1994, JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-293366

(43)公開日 平成 6 年(1994)10月21日

(51)Int.Cl.⁵
B 6 5 D 81/34

識別記号 庁内整理番号
U 7501-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-95033

(22)出願日 平成 5 年(1993) 3 月31日

(71)出願人 000002897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号

(72)発明者 中込 隆

東京都新宿区市谷加賀町一丁目 1 番 1 号

大日本印刷株式会社内

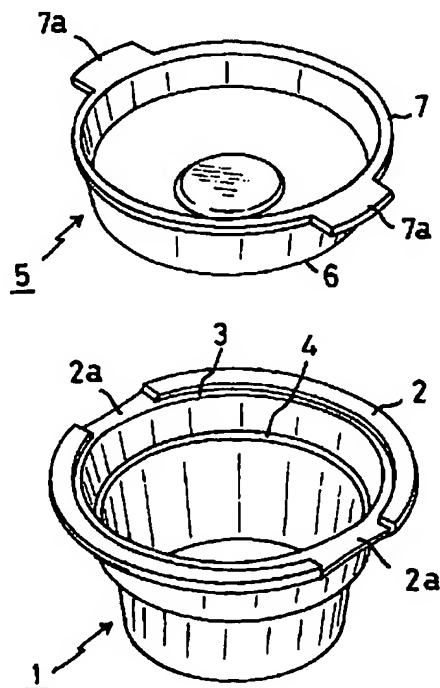
(74)代理人 弁理士 中川 周吉 (外 1 名)

(54)【発明の名称】 電子レンジ用食品容器

(57)【要約】

【目的】 本発明は、2種類の食品を別々に収納したまま、電子レンジと一緒に調理することが出来る食品容器を目的としている。

【構成】 内周壁に段部 3、4 を設けかつ開口部に凹溝 2 a を有する開口縁フランジ 2 を設けた本体容器 1 と、開口部に突片 7 a を有する開口縁フランジ 7 を設けた前記本体容器 1 の開口部に嵌入される中皿容器 5 との組み合わせよりなる電子レンジ用食品容器の構造である。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体容器とこの本体容器の開口部に嵌着される中皿容器とよりなる食品容器に於いて、前記中皿容器の開口縁フランジと前記本体容器の開口縁フランジとを同一平面とし、前記中皿容器の開口縁フランジ端を前記本体容器の開口内周面に密接し、かつ該中皿容器と本体容器との密接部の一部に蒸気抜隙間を設けて構成したことを特徴とした電子レンジ用食品容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、本体容器とその本体容器内に収納される中皿容器とより構成される食品容器であって、特に両者を開口周辺縁で密接させ、1枚のフィルムで同時にシールすると共に、その一部に蒸気抜隙間を設けた電子レンジ用食品容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の電子レンジ用食品容器としては、例えば本件特許出願人が開発した実開平1-91780号公報等が公知である。この公知技術は、プラスチック製身容器の開口部フランジにプラスチック製平蓋を全体的に密着させ、かつ前記フランジと平蓋との接合部の一部に蒸気抜き用の穴を設けた構造の電子レンジ用食品容器に関するものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】然るに、前述の公知技術を含めた従来の電子レンジ用食品容器は、その容器の内部に1種類の食品しか収納出来ないの、主食とおかず等の副食とを別々に収納して調理することが困難である問題があった。特にカレーライス等のように、ごはんと具とを別々に調理し、食べる直前にこれ等を混ぜる等の方法を実施することが困難である問題があった。

【0004】本発明に係る食品容器は、従来のこれ等の問題点に鑑み開発された全く新規な食品容器であって、特に主食と副食とを別々にかつ一体的に収納することが出来、両者の開口部を相互に密接すると共に、その一部に蒸気抜隙間を形成して、電子レンジで調理する際に生ずる蒸気を換気し得るようにした全く新しい技術を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明に係る電子レンジ用食品容器は、前述の従来の問題点を根本的に改善した技術であって、その要旨は、本体容器とこの本体容器の開口部に嵌着される中皿容器とよりなる食品容器に於いて、前記中皿容器の開口縁フランジと前記本体容器の開口縁フランジとを同一平面とし、前記中皿容器の開口縁フランジ端を前記本体容器の開口内周面に密接し、かつ該中皿容器と本体容器との密接部の一部に蒸気抜隙間を設けて構成したものである。

【0006】

【作用】本発明に係る食品容器は、本体容器と中皿容器

とを組み合わせたので、これ等の本体容器と中皿容器とに夫々別々の食品を収納することが出来る。また、中皿容器の開口縁フランジと本体容器の開口縁フランジとを同一平面とし、両者を同時に1枚のフィルムでシールすると共に、中皿容器の開口縁フランジ端を本体容器の開口内周面に密接したので、この部分を相互に密封することが出来る。

【0007】更に、前述の中皿容器と本体容器との密接部の一部に蒸気抜隙間を形成したので、電子レンジで食品を調理する際に、その容器の内部に発生する蒸気をこの蒸気抜隙間より抜き取ることが出来る。

【0008】

【実施例】図により本発明に係る電子レンジ用食品容器の一実施例を具体的に説明すると、図1は本発明の食品容器の構成部品を示す斜視図、図2はその組立状態の斜視図、図3は図2のA-A断面図、図4は図2のB-B断面図、図5は調理中に発生する蒸気を放出する状態を示す断面図である。

【0009】図1乃至図5に於いて、1は本体容器であって、その開口部には開口縁フランジ2が設けられている。また、この開口縁フランジ2の上面には、所定の巾を持った2個の凹溝2aが設けられている。かつ本体容器1の内周壁には、開口部とほぼ上下中央とに段部3、4が夫々設けられている。

【0010】次に、5は中皿容器であって、前記本体容器1内の上部に収納され、かつその下底縁6は前記本体容器1の段部4上に載置し得るように構成されている。この中皿容器5の開口部には開口縁フランジ7が設けられ、この開口縁フランジ7は本体容器1の段部3に密接し得るように構成されている。また、中皿容器5の開口縁フランジ7には、前記本体容器1の開口縁フランジ2の凹溝2a内に挿入し得る2個の突片7aが設けられている。

【0011】前記中皿容器5の外径と本体容器1の内径との関係は、図3乃至図5に示す如く、中皿容器5を本体容器1内に収納した際に、両者間に隙間8が形成されるように構成されている。また、前記突片7aを凹溝2aに挿入した際には、図3及び図5に示す如く、両者間に隙間9が形成されるように構成されている。凹溝2aの巾は開口縁フランジ2の他の部分より狭く形成され、一方突片7aは開口縁フランジ2の端部と同一曲線となるように形成されているので、この凹溝2aと突片7aとの巾の差を利用して中皿5が取りはずしやすくなっている。更に、第4図及び第5図に示す如く、中皿容器5の開口縁フランジ7と本体容器の開口縁フランジ2とはシート蓋10が接着シールされている。中皿容器5の開口縁フランジ2の端部と段部4が本体容器の段部3と下底縁6とに各々強固にささえられているため、シール時に於ける圧力にげを防止し、中皿容器5の開口縁フランジ7は本体容器1の開口縁フランジ2に比較してよ

3

り強めにシール蓋10と接着することが出来る。

【0012】本発明に係る食品容器は、上述の如き構造を有するので、例えば、本体容器1内に米を収納し、かつ中皿容器5にはカレーライスの具を収納し、この状態で中皿容器5を本体容器1内に嵌入し、中皿容器5の開口縁フランジ7を本体容器1内の段部3に密接すると共に、2個の突片7aを夫々凹溝2aに挿入した後、シート蓋10を開口縁フランジ2及び7に同時に貼着して、図2乃至図4に示す如く、全体を組み立てることが出来る。

【0013】本発明に係る食品容器の使用に当たっては、前述の如く中皿容器5が本体容器1内に嵌入された状態のまま、図示しない電子レンジの中に挿入して加熱することによって、中皿容器5及び本体容器1内の食品を夫々別々に調理することが出来る。

【0014】調理時に、本体容器1内で発生した蒸気は、図5に示す如く、蒸気圧で中皿容器5を押し上げて、下底縁6の周りから本体容器1と中皿容器5との隙間8及び突片7aと凹溝2aとの隙間9を介して外方に放出することが出来る。また、中皿容器5内で発生した蒸気は、その蒸気圧でシート蓋10と開口縁フランジ7との接着を部分的に剥離させて、この剥離部分から放出することが出来る。

【0015】

【発明の効果】本発明に係る食品容器は、上述の如き構造と作用とを有するので、中皿容器及び本体容器に夫々別々の食品を収納したまま両者を1枚のフィルムで同時

4

にシールして調理することが出来、かつ食する直前に夫々の食品を混ぜ合わせることが出来る。

【0016】本発明に係る食品容器は、中皿容器と本体容器との間の表側から見えないような場所に隙間を設けたので、調理時に発生する蒸気をこの隙間から蒸発せしめることが出来、これによって中皿容器を本体容器に収納したまま、両者を一緒に調理することが出来る等の特徴を有するものである。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明の食品容器の構成部品を示す斜視図である。

【図2】本発明の食品容器の組立状態の斜視図である。

【図3】図2のA-A断面図である。

【図4】図2のB-B断面図である。

【図5】調理中に発生する蒸気を放出する状態を示す断面図である。

【符号の説明】

1…本体容器

2, 7…開口縁フランジ

2a…凹溝

3, 4…段部

5…中皿容器

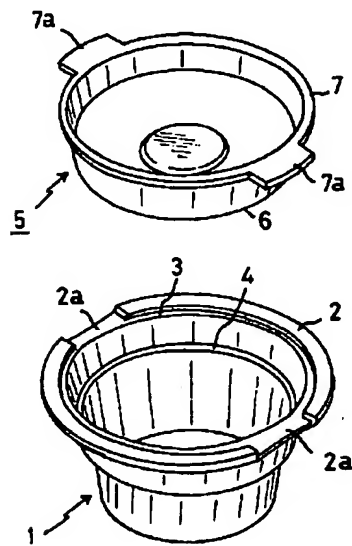
6…下底縁

7a…突片

8, 9…隙間

10…シート蓋

【図1】



【図2】

